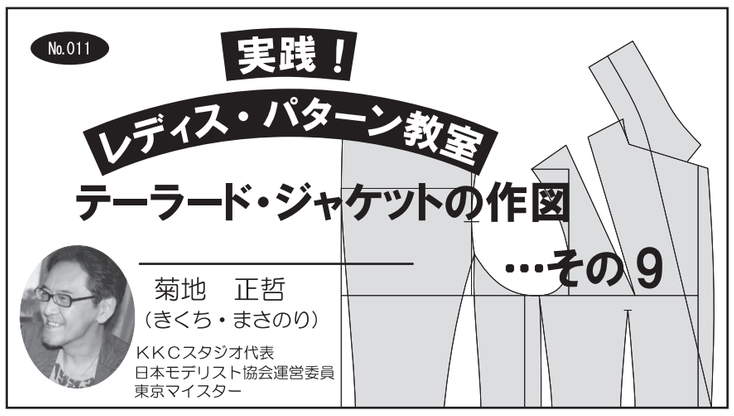
No.011

実践！

レディス・パターン教室

テーラード・ジャケットの作図…その9



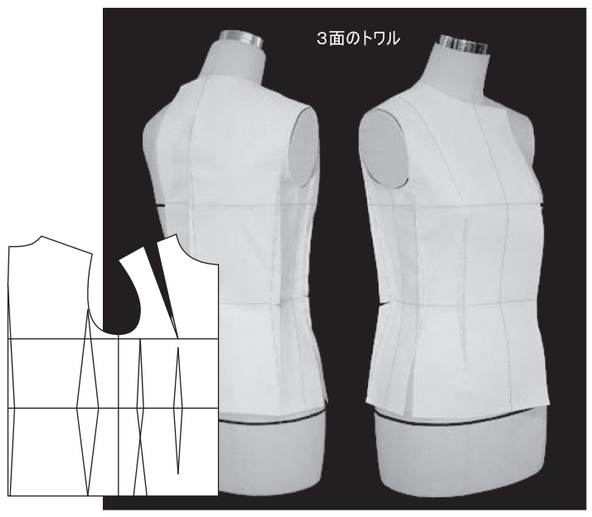
菊地　正哲
（きくち・まさのり）
ＫＫＣスタジオ代表
日本モデリスト協会運営委員
東京マイスター

長々と3面ジャケットのパターンメーキングについて説明してきましたが、今回は締めくくりとして4面ジャケットを説明します。4面と言えば、プリンセスラインやパネルラインが代表的ですが、レディスのジャケットではむしろこちらの方がスタンダードでしょう。本来でしたら個別のテーマとして取り上げるべきなのですが、ここでは4面ジャケットもテーラード・ジャケットの一つと捉えて、補足的な説明に留めることにします。実は、私個人としては3面より4面の方が構造的な難しさを感じ続けることになってしまいますので、4面の何が難しいのか、その要点だけでも伝えられたらいいかなと思います。

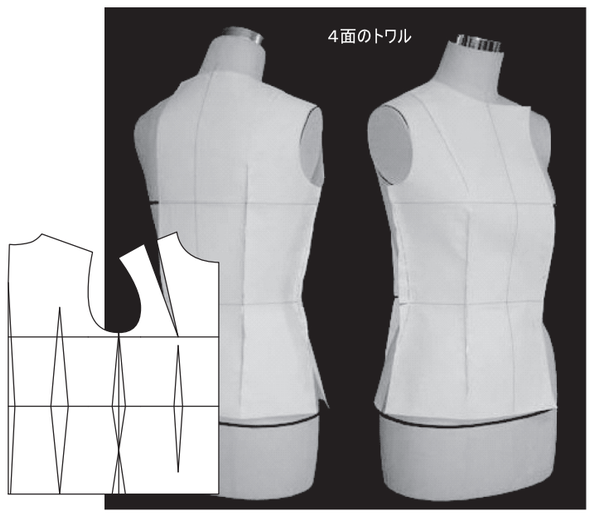
第5章　身頃の作図（4面体）

1. 3面と同じ方法で4面は作れるのか？

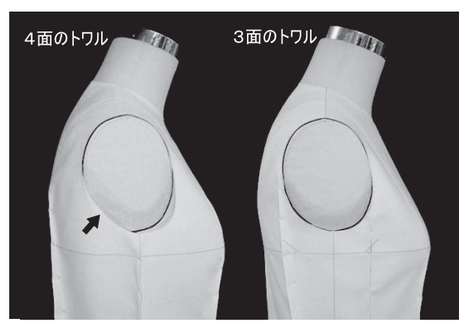
第1章「7. トワルによるシルエットの造作」で、ストレート原型のトワルからウエストを絞ってシルエットを作る方法を、3面ジャケット原型を作ることができるはずである。



【写真１】



【写真２】



【写真３】

の基本的な作成方法として紹介した。3面も4面もウエストを絞るダーツの位置が違うだけで、あとは同じ。ならばストレート原型から3面と同じようにこれまで説明してきた通りのものである。

ず。実際にやって検証してみよう。

【写真１】ストレート原型のウエストを絞って生した部分の拡大写真。4面の方はアームホールの形状が崩れているのが分かる。特に後ろアームホールがボディーに張り付いて後ろ腋点より被ってしまっている。これは明らかに後ろアームホール丈が不足している場合にこの操作をしているはずである）。

――プリンセスライン修正後のバストラインは当然、水平ではなくなる。つまり、3面はバストラインが水平だが、4面はバストライン特有の諸問題が一気に解決する。紳士服の歴史と変遷の中で、先人たちは何故テーラード・ジャケットにプリンセスラインを採用しなかったのか？それを考えると筆者は残念でならない。

【写真２】同じように起きる現象である。

――アームホールの崩れを直すには脇線のピンを外し、前脇と後ろ脇を上下にスライドしてピンを打ち直す。この場合は前脇を下に、後ろ脇を上にスライドして打ち直すことで後ろアームホールの丈が長くなり、張り付きが改善する（普段ドレーピングを多用している人であれば、ドレーピングでゼロから4面のシルエットを作るとき、無意識にこの操作をしているはずである）。

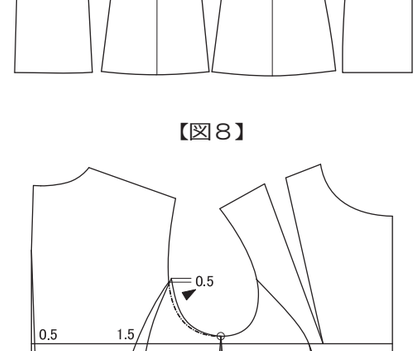
【写真３】不具合が発生した部分の拡大写真。

――プリンセスラインはダーツの処理を切り替え線上でいかようにもできるため、もっとも思い通りのシルエットを作ることができる構造だと言える。特に後ろアームホールの浮き分をたむことで、「抱き落ち」をはじめとする3面ジャケット特有の諸問題が一気に解決する。紳士服の歴史と変遷の中で、先人たちは何故テーラード・ジャケットにプリンセスラインを採用しなかったのか？それを考えると筆者は残念でならない。

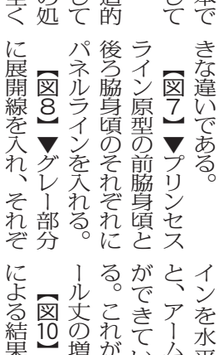
【図４】バストラインを水平にして再配列し、その上にストレート原型を重ねた図。

【図５】アームホール部分の拡大図。後ろアームホール丈がストレート原型より長くなっているのが分かる。

【図６】不要な浮き分を減らしたいときは、背中心と後ろアームホールに逃がしたダーツ分をたたんで元に戻す。その場合、袖のパターンは改めて引き直すことになる。

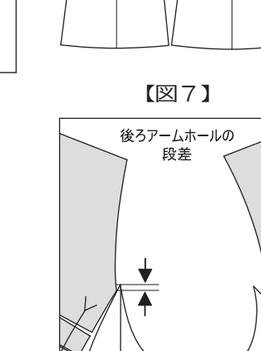


【図５】

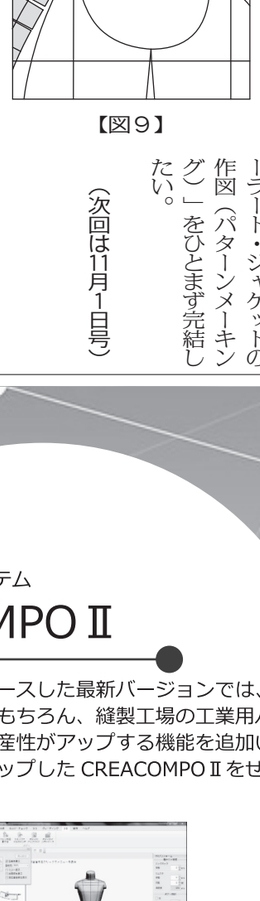


【図６】

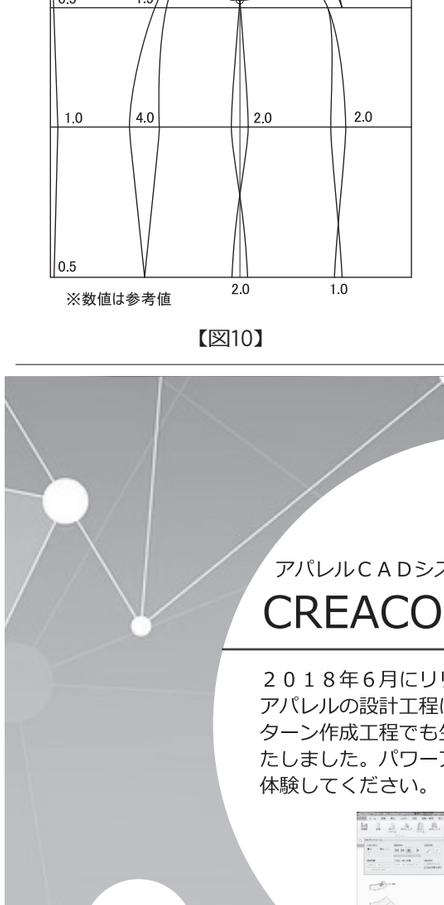
【図４】



【図３】

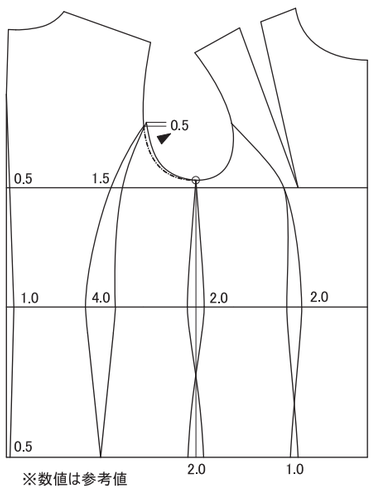


【図７】

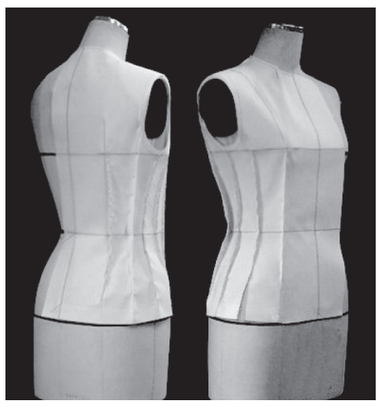


【図８】

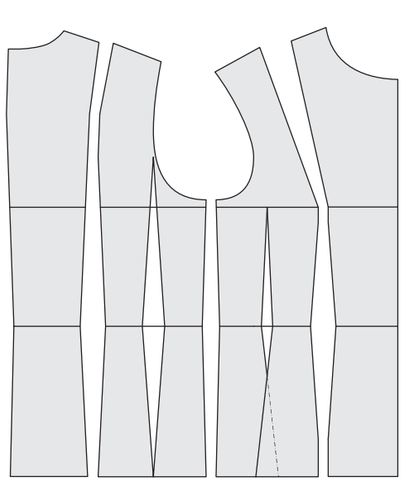
【図９】



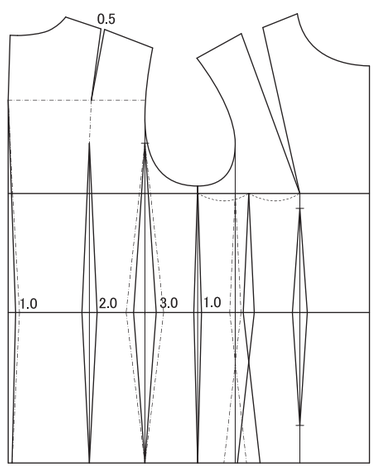
【図10】



【写真４】



【図２】



※数値は参考値

【図１】

2. 3面ジャケット原型からプリンセスラインへの展開

まず、プリンセスラインの定義についてお断りしておきたい。プリンセスラインとは、本来はイギリスのアレクサンドラ王女（プリンセス）が着ていたドレスの切り替え線に由来するそうだが、筆者はこの業界に入って以来ずっと「肩からバストトップを通って裾に至る縦の切り替え線」をプリンセスラインと呼んでいるので、ここでもそのように定義したい。

トワルによるシルエットの造作において、3面と同じ方法では4面は作れないことが分かった。前述の脇線のスライドによる修正を施すのも一策だが、もっと論理的な方法として、3面ジャケット原型からパターン展開によって4面にする方法を説明する。

【写真４】ストレート原型のウエストを絞るダーツを3カ所から5カ所に増やしてシルエットを造作したトワル。3面より更にボディーに沿ったシルエットになる。当然、ストダーツをBP（バスト・ポイント）～脇線の中間まで平行移動する。分割する。

【図１】写真４のトワルと同じになるように、3面ジャケット原型を次のように修正する。※数値は参考値▼替え線全般を指すのだが、筆者はこの業界に入って以来ずっと「アームホールに向かってカーブしている切り替え線」をパネルラインと呼んでいるので、ここでもそのように定義したい。ちなみに、イギリスのアレクサンドラ王女（プリンセス）が着ていたドレスはパネルラインである。日本できた違いである。

【図２】▼プリンセスラインと脇線で身頃を4分割する。▼ダーツをたたんだ後、再びウエストラインで結合する。

【図３】▼前脇身頃とイセをダーツに戻す。▼後ろ脇身頃をウエストラインで分割する。▼ダーツをたたんだ後、再びウエストラインで結合する。▼バストラインは両端を結ぶ直線で引き直す。

3. プリンセスラインからパネルラインへの展開

パネルラインの定義についてもお断りしておきたい。パネルラインとは、本来は面を分割する切り替え線全般を指すのだが、筆者はこの業界に入って以来ずっと「アームホールに向かってカーブしている切り替え線」をパネルラインと呼んでいるので、ここでもそのように定義したい。ちなみに、イギリスのアレクサンドラ王女（プリンセス）が着ていたドレスはパネルラインである。日本できた違いである。

【図７】▼プリンセスライン原型の前脇身頃と後ろ脇身頃のそれぞれにパネルラインを入れる。

【図８】▼グレー部分に展開線を入れ、それぞれ前身頃と後ろ身頃に分パネルラインを入れて作図をした図。後ろ脇身頃のアームホールを回転して段差を作るのがポイント。※グレー部分の面積が大きい程イセ分量も増える。

【図９】後ろアームホールの拡大図。バストラインを水平に配置すると、アームホールに段差ができているのが分かる。これが後ろアームホール丈の増加分である。

【図10】パターン展開による結果を踏まえて、ストレート原型に直接パネルラインを入れて作図をした図。後ろ脇身頃のアームホールを回転して段差を作るのがポイント。※数値は参考値

――以上、簡単ではあるが、4面ジャケットの説明を終わりにする。繰り返すが、「3面との違いはバストラインが水平にならないこと」である。従って、立体裁断であろうが平面製図であろうが、バストラインを水平にしたままでは4面を作ることはできない。これは身頃の構造の基本的な論理であって、ジャケットに限らずブラウスやドレスにも全く同じことが言えるのだ。このことを最後にお伝えして、「テーラード・ジャケットの作図（パターンメーキング）」をひとまず完結したい。

（次回は11月1日号）

アパレルＣＡＤシステム
CREACOMPO Ⅱ
２０１８年６月にリリースした最新バージョンでは、アパレルの設計工程はもちろん、縫製工場の工業用パターン作成工程でも生産性がアップする機能を追加いたしました。パワーアップした CREACOMPO Ⅱをぜひ体験してください。

アパレル向け帳票連携システム
XiForm Magic
転記不要の帳票管理で業務の効率化を目指しませんか？ XiForm Magic を使えば、帳票作成にありがちな、転記・コピペ・複雑なピッチ計算などのミスから脱却できます。さらに、お客様の業務に合わせたカスタマイズも可能です。

アパレル向けオーダーシステム
オーダー・ソリューション
オーダーには、受注・基本パターンの選択・パーツの選別・寸法補正・マーキング・仕様書作成などの作業があり、１件１件の受注内容は異なりますので、手作業や一般的な CAD 環境ではかなりの労力を要します。東レ ACS のオーダーソリューションは、これらの設計工程の改善を提案します。

出展情報
55th FISMA TOKYO
- 東京ファッション産業機器展 -
[Fashion Industry System Machine & Attachment Exhibition]
2018年10月3日，4日　東京ビッグサイト 西３ホールにて開催！
お問い合わせ　営業部東京営業グループ　TEL：03-6327-7001
東レＡＣＳ株式会社
https://www.toray-acs.co.jp/
TORAY ACS Advanced Computer Solution